

企画展「運ぶ - 埼玉古墳群とモノの動き -」の開催について

山田 琴子

1 企画展の開催計画

埼玉古墳群は令和2年3月に特別史跡に指定された。これに先立ち、埼玉県教育委員会では50年以上に渡る埼玉古墳群の発掘調査の成果を纏めた『国指定史跡埼玉古墳群総括報告書I』を刊行した。この中では、発掘調査によって明らかになった成果や埼玉古墳群から出土した資料について詳細な分析がなされている。また、埼玉古墳群周辺の市町村の発掘調査報告書や市町村史の刊行などにより、埼玉古墳群やその周辺の集落の様相や古墳時代当時の自然地形も明らかになってきている。

令和3年度の企画展は、こうした近年の埼玉古墳群とその周辺地域についての研究の成果を分かりやすく紹介することを目的とした。今年度の展示会が終了したことにあたり、企画展の概要について事業報告を行うものである。

2 5つのコーナーによる展示構成

今回の展示では「河川によるモノの運搬」が大きなテーマであるが、古墳時代の港湾遺跡や河岸など河川を利用したことが確認できる遺構は埼玉県では発見されていない。このため、生産地と消費地が判明しており、遠距離を運ばれたことが明らかであるものや、埼玉古墳群の周辺集落から出土した河川や水運に関連する資料を取り上げて、遺跡と河川との関連をイメージしてもらうこととした。また、埼玉県内から出土している古墳時代の船や船形木製品を集めて内陸での水運が盛んに利用されていたことを印象付けるよう工夫した。

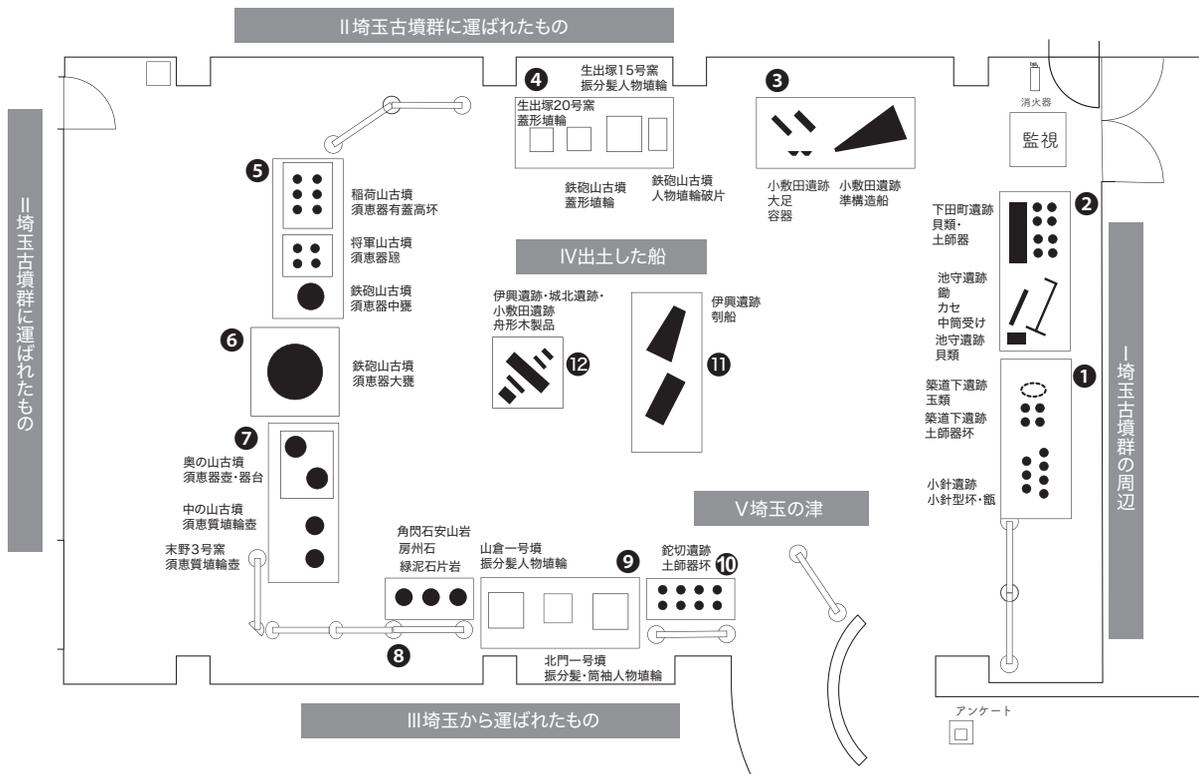


図1 企画展示室展示レイアウト

I 埼玉古墳群と川

埼玉古墳群の北方を流れる利根川と南方を流れる荒川は、埼玉古墳群築造当時には現在とは流路が異なり埼玉古墳群に近い場所で合流していたと考えられており、埼玉古墳群の立地は河川と深く関わっていたことがうかがわれる。河川と埼玉古墳群の位置や流路の変化は展示の中でも重要な情報であるため、展示の最初にパネルで説明をした。

また、行田市小針遺跡、築道下遺跡など河川の港湾施設と考えられる遺跡や、行田市池守遺跡、熊谷市下田町遺跡などの海の貝が出土している遺跡、行田市小敷田遺跡から出土した準構造船の部材など大宮台地北部から妻沼低地、加須低地にかけての地域の河川と関連する遺跡と遺物を取り上げて展示し、埼玉古墳群だけではなく、古墳時代当時の周辺地域も河川と深く関わる地域であることを示した。

<展示資料>

- ・行田市小針遺跡出土土師器（小針型坏）
- ・行田市築道下遺跡出土土師器（小針型坏）、玉類、鉄製品、砥石
- ・行田市池守遺跡出土貝殻、木製品
- ・熊谷市下田町遺跡出土貝殻、動物骨
- ・行田市小敷田遺跡出土準構造船部材、木製品



図2 展示風景1

II 埼玉古墳群に運ばれたモノ

埼玉古墳群から出土した埴輪や須恵器、横穴式石室に用いられた石材は埼玉県内外の生産地や産出地から運ばれてきたモノであることがこれまでの研究で明らかとなっている。埴輪は鴻巣市生出塚埴輪窯跡で製作された大半である。また、須恵器は陶邑を中心とした畿内の窯や埼玉県寄居町の末野窯、石材は長瀨町や比企地域で産出する緑泥石片岩、千葉県富津市周辺で産出する房州石、群馬県の渋川市周辺で産出する角閃石安山岩など産地が明らかとなっているものを取り上げた。これらの埴輪や須恵器、石材は大型であったり、重量があるため、産地から陸路で運ぶよりは河川を通じて運ばれたことが想定される。

<展示資料>

- ・鉄砲山古墳出土人物埴輪破片、蓋形埴輪破片
- ・鴻巣市生出塚埴輪窯出土振分髪表現の人物埴輪、蓋形埴輪（重文）
- ・稲荷山古墳出土須恵器蓋・高坏
- ・将軍山古墳出土須恵器甕

- ・鉄砲山古墳出土須恵器甕・大甕
- ・奥の山古墳出土須恵器裝飾付壺・高坏型器台
- ・中の山古墳出土須恵質埴輪壺
- ・寄居町末野窯出土須恵質埴輪壺
- ・鉄砲山古墳出土緑泥石片岩破片
- ・鉄砲山古墳出土角閃石安山岩破片
- ・将軍山古墳出土房州石破片



図3 展示風景2

Ⅲ 埼玉県内から運ばれていったモノ

埼玉古墳群に運ばれてきたモノとは対照的に、埼玉県内で生産されたり産出したものが他県で出土する例がある。

埼玉古墳群にも埴輪を供給していた生出塚埴輪窯では、6世紀後半には埼玉県内の古墳のみならず千葉県、東京都、神奈川県古墳にも埴輪を供給していた。埼玉古墳群中の鉄砲山古墳からは大型の人物埴輪の破片が出土しているが、同時期の市原市山倉1号墳、横浜市北門1号墳からも同様の人物埴輪が出土している。製作地である生出塚埴輪窯から出土した人物埴輪と、消費地である市原市山倉1号墳、横浜市北門1号墳から出土した人物埴輪とを見比べてもらうことを意図し、前章の形象埴輪のケースとは対面に位置するケースに展示した。

また、埼玉県内で産出する緑泥石片岩は千葉県や神奈川県古墳でも石室に利用されていることが確認されている。その一例として、千葉県木更津市金鈴塚古墳の石室内の箱式石棺の写真を展示した。

埴輪や石室の石材など、古墳を築造する際に必要となるものとは異なる移動をするものがある。その代表例が当時の人々の生活用具である土師器である。北武蔵の集落遺跡で多く出土する比企型坏や有段口縁坏などが、武蔵国と相模国の境界付近に位置する横須賀市鉞切遺跡から出土している。この遺跡の周辺では土師器の生産が行われておらず、北武蔵から運ばれたと考えられる土師器が大半を占めている。この遺跡では漁撈が行われており、埼玉県内からは土器を運び、鉞切遺跡からは魚介類を埼玉県内まで運んでいたことも考えられる。

<展示資料>

- ・市原市山倉1号墳出土振分髪表現の人物埴輪（千葉県指定）
- ・横浜市北門1号墳出土筒袖表現の人物埴輪（横浜市指定）
- ・横浜市北門1号墳出土振分髪表現の人物埴輪（々）
- ・横須賀市鉞切遺跡出土土師器坏

・木更津市金鈴塚古墳箱式石棺（写真）



図4 展示風景3

IV 出土した船

河川を通じて様々なものを運んだ際に利用されたと考えられるのが船である。埼玉県内やその周辺では古墳時代の集落遺跡から船の部材や、船を象った船形木製品が出土している。

埼玉県に隣接する東京都足立区伊興遺跡からは、古墳時代の刳船と準構造船の部材が出土している。埼玉県内からは行田市小敷田遺跡、吉見町吉見条里遺跡から古墳時代の刳船が出土している。出土した船は、いずれも舳先に近い部分であることから船としての用途を終えた後に、舳先の部分だけ削り落として井戸杵などに転用されていたようである。

船形木製品には刳船と準構造船の両方を象ったものが見られるが、同じ刳船でも様々な形態をしていることから、元となった船の形態も多様であったことがうかがえる。

<展示資料>

東京都足立区伊興遺跡出土刳船部材 舳先部分・舷側板

吉見町吉見条里遺跡出土刳船（写真）

東京都足立区伊興遺跡出土舟形木製品

行田市小敷田遺跡出土船形木製品

深谷市城北遺跡出土船形木製品



図5 展示風景4

V 埼玉の津

この章では図像や文献資料に残された河川や船と埼玉の地との関わりを、文章パネルと写真で示した。

埼玉古墳群と同じ行田市内に所在する地藏塚古墳の石室には船を漕ぐ人の線刻画があり、埼玉古墳群周辺の地の水との関わりの深さを感じさせる。

また、埼玉古墳群の最後の前方後円墳である中の山古墳が築造されてから、約100年後に成立した万葉集の卷十四東歌中の相聞、武蔵国の歌九首のうち一首三三八〇番「埼玉の津に居る船の風をいたみ 綱は絶ゆとも言な絶えそね」という歌に「埼玉の津」という地名が登場する。埼玉古墳群周辺では古墳時代から古代にかけての時期の津の遺構は確認されていないが、埼玉古墳群周辺に津が存在した可能性が極めて高いことを示している。

3 関連事業と刊行物

約2カ月間の会期中に実施した関連事業は、講座1回とシンポジウムである。講座は、当館が通年で実施しているさきたま講座の中に組み込まれており、展示担当者が講師となって展示の内容や見どころを説明した。シンポジウムは企画展のテーマとなるモノの移動や河川交通について、古墳時代の東日本地域を対象として研究を行っている研究者に東日本の各地域の事例等について発表を行っていただいた。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令中ということもあり、企画展の展示解説は実施しなかった。

関連印刷物は、B2版ポスター500枚、チラシ20,000枚と図録1,000部を刊行した。また本年度の企画展より、ターポリン製のシートを作成して博物館正面入口の扉の脇のガラス壁に貼り、企画展が開催されていることが博物館入口で来館者に分かるように示した。



図6 博物館入口シート

4 広報活動

展示会の広報は、関連・類縁機関および秩父鉄道の主要駅、市内飲食店へのポスター掲示を依頼した。

資料提供による記者発表は、7月1日に行い、毎日新聞、埼玉新聞の記事の中で紹介された。埼玉県立さきたま史跡の博物館では、昨年度から博物館のTwitterアカウントを開設して展示やイベントの告知を行っているが、企画展開幕3週間前から展示の告知を開始し、展示作業や図録の紹介等を行っていた。

企画展開催データ

名称：令和3年度企画展「運ぶ ー埼玉古墳群とモノの動きー」

会場：さきたま史跡の博物館企画展示室

開催期間：令和3年7月10日（土）～9月12日（日）

会期日数：59日間（休館日7月12日・26日・8月2日・23日・30日・9月6日）

入館者数：11,449人

資料点数：43件109点

関連事業：(1) さきたま講座

7月31日(土) 13時30分から15時30分

演題：「埼玉古墳群と河川」

講師：山田琴子(さきたま史跡の博物館)

(2) 企画展関連シンポジウム

9月11日(土) 13時から16時

タイトル：「埼玉古墳群とモノの動き」

パネラー：右島和夫氏(群馬県立歴史博物館)

田中 裕氏(茨城大学)

小橋健司氏(市原市埋蔵文化財調査センター)

司 会：山田琴子(さきたま史跡の博物館)